

ワクチン接種が進んでいますが、いまだにほとんどのイベントが開催できない状況にあります。上宿で子どもたちが楽しみにしている、獅子舞、藁馬引き、豆まきなどの道祖神祭りや、夏のメインイベントである小田井宿祭、納涼大会は中止となりました。そのため昨年に引き続き、各家庭で楽しんでもらえるよう、花火を配布しました。

コロナ禍でも実施可能なイベントはないものかと模索しましたが、なかなか難しく逆転ホームラン的発想はできませんでした。

結局、公民館の主となる活動の生涯学習、社会体育とも、人と人のコミュニケーションを通じて、その目的が達せられるのです。



書道学級の様子

分館活動紹介

上宿区分館長
尾台 勝文 さん

18分館では、それぞれの地区の特色を活かした活動が実施されています。その中から、3分館の活動を紹介していただきます。

以前のような三密を意識しない生活環境に戻れることを願うばかりですが、しばらくの間は公民館活動の在り方を考え直さなければいけないのかもしれないですね。



田植えの様子



今年17家族の皆さんと農業体験を通じたさまざまな活動を実施しています。

区画分けされた畑にそれぞれの家族で野菜を植えて、収穫まで大切に育てます。

子どもたちは大人たちが野菜の世話をしている横で、お手伝いをしたり、生き物を探して、走り回ったり、楽しそうにしています。

自然の中で自由に遊ぶ子どもを見てみると、何かを与えられなくても想像力次第で何でも楽しく生活できるのだと、教えてもらえる気がします。



じゃがいも掘りの様子

いきいき学級



◆新型コロナを学ぶ◆

感染症とわたしたち～新型コロナウイルスが教えたこと～

7月3日、諏訪中央病院の副院長 高木宏明先生を講師に迎え、新型コロナウイルスについて学びました。参加者は42名でした。

講義では感染症の歴史から始まり、新型コロナウイルスの感染対策についてお話しいただきました。

新型コロナウイルスをはじめ、これまでの感染症では、流行とともに世間に不安と恐怖が蔓延することによる「差別と誹謗中傷」が生じてきました。不安は誰にでもあります。何が感染のきっかけになるのか、ウイルスに感染するとはどういうことなのかを理解して、知識を持って感染対策をする大切さを学ぶことができました。



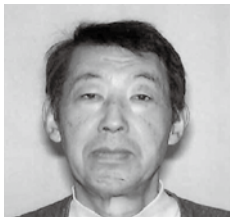
◆歴史講座◆

5月22日に元県立歴史館 文献史料課長の柳澤哲先生を講師に迎え開催しました。参加者は28名でした。

今回は「江戸時代の庶民の暮らし」についてをテーマに講義いただきました。

柳澤先生の地元である坂城町にあった北国街道の宿場「坂本宿」の資料を基にした1820年～1850年ごろのお話となりました。

柳澤先生には、平成31年度に明治時代の庶民の暮らしを紙幣に関することからお話しいただいたこともあり、より知識を深めることができました。



塩野区分館長
中澤 多賀夫 さん

新型コロナウイルスによるパンデミックが猛威を振るい、医療逼迫等苦境の最中にあります。

昨年春から塩野分館の活動もほとんどが中止になりましたが、伝統行事でギリギリ間に合ったのが獅子舞、藁馬作り講習会、少年少女健全育成の集いでした。



小田井区分館長
上原 亮一 さん

小田井区は、町の南西に位置し、旧中山道の小田井宿がある約90戸の小さな区です。

例年の分館の活動としては、5月に365歳野球大会、6月に三世代交流マレットゴルフ大会を実施しています。終了後は焼肉をして、

塩野の獅子舞は各戸訪問型で、太鼓に合わせ独特の歌で舞います。藁馬作りは公民館に希望者が集まって、保存会の皆さんの指導で伝統の藁馬を作り持ち帰ります。少年少女健全育成の集いは、古くから別々に行われていた天神講、道祖神、藁馬引きを一緒に行います。子どもたちを中心に、各種団体が協力して、西田の辻から大谷地まで道祖神を巡って東進し、浅間神社にて、天満宮、鎮守の神様に拝礼し、神馬「あお」と「はるかぜ」を奉納します。



左が「あお」、右が「はるかぜ」

区民の親睦を深めています。

8月は各区対抗野球大会や、上宿区と共催で納涼大会、小田井宿まつりを行っています。

納涼大会では分館役員が露店を担当しています。小田井宿まつりでは、中学生が露店を担当し、区民に楽しんでもらえるよう暑期中頑張っています。

1月には獅子舞とどんど焼きを行っています。獅子舞は児童数の減少により、規模を縮小しながらではありますが続いています。どんどん焼きは子どもたちが大きくなくても参加してくれ、成長した姿を見られるのも楽しみの一つとなっています。

この2年間は新型コロナウイルスの影響で行事が中止になることが多いですが、一日も早く収束し、通常の活動ができるよう願っています。

